

話しことばチェッカーの開発と評価

山下 由美子^{*、**}, 長谷川 哲生^{**}, 山川 広人^{***}, 小松川 浩^{**、***}

Development and Evaluation of Japanese Colloquial Writing Checker

Yumiko YAMASHITA^{*、**}, Tetsuo HASEGAWA^{**}, Hiroto YAMAKAWA^{***},
Hiroshi KOMATSUGAWA^{**、***}

1. はじめに

近年, 多くの大学で初年次教育の一環として, レポート・論文の書き方など文章作法関連の授業が開設され, 日本人学生に対する日本語力, 文章力の向上を図る取り組みがなされている. レポート作成においては, レポートで求められる書き言葉(学術表現)が必要である. にもかかわらず, 学生達が適切な書き言葉を使えていないことについて, 佐藤⁽¹⁾は, レポートの形式や内容以前に, 学生達が日本語の運用そのものに問題を抱えていることを指摘している.

本来, 日本語で中等教育までを受けていれば, 一定程度の日本語リテラシーを持ち, 話し言葉と書き言葉の区別も経験的に学び認識しているはずである. しかしながら, 石黒⁽²⁾は学生のレポートに話し言葉が混入する現象が見られ, 初年次教育の一環として改善に向けた指導の必要性があることを指摘している. そこで本研究では, 学生自身が推敲段階においてレポート内の話し言葉をチェックできる「話しことばチェッカー」システムの開発および, その教育的効果検証を目的とした.

2. 本研究の位置づけ

通常, 文章作法に関する授業でも話し言葉に特化した指導は行われない. それは, 時間的制約の理由もあ

るが, それ以上に石黒⁽²⁾は, 教員自身が話し言葉と書き言葉の区別を感覚的にしか伝えられないからだとしている. これは, 話し言葉を体系的にまとめ分類した事例がなく, 指導法も確立されていないためである.

この現状に対し, 本研究ではまず, 山下⁽³⁾の「話し言葉一覧表」を基にデータベースとして「話しことば事例集」を整備することとした. 「話し言葉一覧表」は, 話し言葉指導の現状を調べるため, 市販のレポートの書き方に関する書籍13冊で扱われる話し言葉を品詞別に一覧表にまとめたものである. なお, 本研究における話し言葉とは, レポート内に出現する「書かれた話し言葉」を指す. これまで蓄積してきた374本の初年次学生のレポート内の話し言葉を確認したところ, 「じゃあ」「超」「~ちゃう」「わかんない」など口語的話し言葉⁽³⁾は確認できなかったため, 公開されている口語としての話し言葉コーパスからではなく, 上記374本に加えその後も蓄積してきた学生レポートから事例を収集することとした.

また, 話し言葉をドリルや一問一答形式のテストで学習させるのではなく, 学生にまとまった文章を作成させ, システムを用いて自分の文章内の話し言葉への気づきを促し, 推敲させる方策を取ることとした.

レポートの文章校正に利用できるシステムには, 無料で利用できるものもいくつか公開されている. Wordの文章校正機能「スペルチェックと文章校正」, 「オンライン日本語校正補助ツール」⁽⁴⁾, 「テキスト

* 帝京大学高等教育開発センター (Center for Teaching and Learning, Teikyo University)

** 公立千歳科学技術大学大学院理工学研究科 (Graduate School of Photonics Science, Chitose Institute of Science and Technology)

*** 公立千歳科学技術大学情報システム工学科 (Department of Information Systems Engineering, Chitose Institute of Science and Technology)

受付日: 2020年9月20日; 再受付日: 2021年3月22日; 採録日: 2021年6月8日